



南中だより

教育目標 愛 勉学 自主性 健康

令和4年9月2日

東久留米市立南中学校

校長 小川 高弘

防災の日

校長 小川 高弘

42日間の夏休みが終わり、2学期がスタートしました。夏休み中にも、新型コロナウイルス感染症は、7月28日に東京都でこれまでの一日の感染者数を更新し、初めて4万人を超えました。その後、感染者数は減少していますが、未だ油断できない状況です。南中にも、感染や濃厚接触の報告も入り、2学期も引き続き、感染対策が必要とされます。校内の感染者は少なく、始業式は、全学年そろって体育館で行うことができました。また、9月には、2年生の移動教室、1年生の校外学習、3年生の修学旅行が続きます。学校での日常生活に加えて、校外での感染対策についても引き続き徹底していきます。参加の可否の判断や保護者の迎えなど、その際は、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、9月1日は、1960(昭和35)年に防災の日として制定されました。9月1日は、1923(大正12)年の関東大震災が発生した日であるとともに、台風シーズンを迎える時期でもあることに由来します。関東大震災は、11時58分に発生し、関東地方で震度6以上の強い揺れを観測し、死者・行方不明者は10万人を超えました。校長室にあります「東久留米市史」によれば、市内では橋が崩れ、建物の壁にひびが入ったものの大きな被害の報告はなかったそうですが、しばらくしてから、今の東京23区の被害が大きかったため、復興を待たずに多摩地区への移住者が増え、東久留米の人口もこの機会に増加したと記されていました。

今年の夏も、東北の豪雨・洪水や各地で震度5を超える地震、猛暑など、多くの自然災害に見舞われました。防災の日は、台風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火等の災害についての認識を深め、それらの災害に対処する心構えと備えをするための日です。自分の身は自分で守る「自助」、地域と連携してお互いに助け合う「共助」の必要性について、始業式でも話をしました。始業式の後には、コロナ禍のために3年振りになりますが、地域合同防災訓練を実施しました。1・2年生は初期消火訓練・起震車体験・地域消防団の講話、3年生は心肺蘇生・AEDの体験に取り組みました。普段から「自助」「共助」の意識をもち、もし災害が起きたとしても、被害を最小限に食い止める準備が必要です。この機会に、ご家庭の災害備蓄品の保存期限のチェックや家族で別々に避難した場合の連絡方法などを確認してはどうでしょうか。私たちの生活が、安全で安心できるように、学校として様々なことに取り組んでいきます。



